

壇の岡

2月21日(金) 第82号
発行責任者 鮫川中学校長 角田敏文

教育目標

学ぶ心
よく学び自己を高める生徒
美しい心
心豊かで思いやりがある生徒
強い心
心身を鍛えたくましい生徒



こちらから
各学年だより
等がスマ
ートフォ
ンからも
ご覧で
きます。

感謝のできる人

仕事帰りの途中、駅の構内で高年齢の方が何かを探している様子だった。

「何かおこまりですか？」と声をかけお手伝いをしました。

分かれ際にその方は何度も深くとお辞儀をして喜んでおられました。

私自身、大したことをしたわけではなかったのですが、感謝されることは思っていませんでした。

た。駅を離れ自宅へ向けて歩いて帰る道、針ほどの事を棒ほどに喜べば棒ほどのおかげがある。

という言葉を思い浮かべ、「世界中で一番幸せな人間とは、感謝できる人である」とはまさしくこのように人のようだな。

日々、仕事をしていっていると、感謝の気持ちが、この方のように針ほどの些細なことでも棒ほどに大きく感謝できる人になりたいと思

い、今の自分の足りなさを感じました。人の振る舞いや行動は、その時の気持ちによって表れます。

日々の出来事の中で悲しみは小さく喜びを大きく感じ「毎日ありがたければ」と喜べる人間を目指さな

ら教わりました。これはある冊子に載っていた記

卒業の準備

事です。現代は殺伐としていて、何となく辛い世の中ですが、こういう考え方の人が増えれば、少しは良くなるのではないかと感じました。

いよいよ義務教育九年間で最後の式、卒業式が近づいてきました。

連、意欲的に活動した特設活動、感動的だった壇の岡祭、来校者を驚かせる自然な挨拶、気遣いの

きる人間関係、純朴な学年……、今、卒業を目前にして、何を思

っているのでしょうか。

「何日」などというとか「あと何日」などというとか、ロケットを打ち上げる時にもカウントダウン

はおこなわれます。つまり「カウントダウン」は次へのジャンプの

ためのつきものかもしれません。

日本人初の女性宇宙飛行士向井千秋さんの夫の向井教授(医学部

の先生)がこんなことを言ってい

ました。

「NASAのすごいところは、

すべてが計画通りで、何一つ行き

当たりばったりがないところだ

す。何通りもの『もしも……』で

が考えられていて、私たち宇宙飛

充実した三年間

行士の家族まで、対応の仕方が準備されていくんです。

あと何回、鮫中の校歌を歌うことができたか。三年間つきあってきたこの机に向かうことができ

ますか。給食をいただくことができ

ますか。この三年間過ごした校舎をお掃除することができました

か。数えたことありますか？

この一生涯に何回かしか経験できない貴重な「カウントダウン」のときに、新たなジャンプのためには欠かせない、全てのものに對する慈しみの心を改めて蓄えてほしいです。

三年生の卒業文集の下書きを読ませてもらってそう思いました。

三年生のその時のようすが手に取るようにわかるからこそ、涙を誘われる思い出もたくさん書かれています。

また、「この仲間と9年間過ごせたから……」「感謝(親、友達、先生)」「ありがとう」

「仲間」「団結」「協力」という言葉が随所に書かれています。

よくこんな言葉を聞くことがあります。

「すばらしい思い出をつくるために……」思い出なんか、つくろうとしてくれるものでしょう

週の行事予定

24	月	振替休日
25	火	平石・横山杯卓球大会
26	水	鮫川村連合PTA監査会
27	木	NO部活動デー
28	金	卒業式全体練習②
1	土	3年前期選抜試験事前指導
		白河市長杯バレーボール大会